

いずれかを○で囲む

学校名		福岡市立博多工業高等学校	学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価（総合）	
学校長	ふりがな	ふくおか てつろう	【教育方針】 校訓「質実剛健」の精神を継承し、全教職員の参画と実践を通して生徒に自信と気づきを与え、自らの手で未来を切り拓ける工業高校生徒の育成を目指す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 合い言葉：「魅力ある工業高校として尖る」 </div>	学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	福岡 哲朗				
校長本校在籍年数		2 年	【教育目標】 (1) 校訓「質実剛健」の精神を継承し、質朴、誠実、心やからだ健やかで、強くたくましい生徒を育成する。 (2) 「安全第一」を重視し、工業教育で育つ「ものづくりの心」の上に専門的知識や確かな技術を習得させ、工業発展や産業社会に寄与・貢献できる有為な生徒を育成する。 (3) 人権教育を推進し、個人の価値や尊厳を大切に、互いの人格を尊重する意識・意欲・態度を養い、実践行動ができる生徒を育成する。 (4) 礼儀や秩序、規律を重んじ、勉学や部活動に勤しむ学校文化を創造し、誇りや自信を持った生徒を育成する。 (5) 進路実現（進路保障）をメインテーマとし、学校スローガン「Challenge博工」のもと、ものづくり・資格取得・部活動を活性化することで、生徒を磨く。	(1) 新たな博多工業高校の創造 「専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議報告書」をもとに具体的方策を策定し、魅力ある博多工業高校づくりを進める。 (2) 組織的学校の運営 各部・各教科等が連携することで、教職員のもっている力を結集し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたる。 (3) 危機管理の徹底 日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。 (4) 業務の棚卸 上記（1）から（3）を踏まえ、学校全体、部・学年・学科・教科・委員会、そして一人ひとりが業務を洗い出し、整理する。		
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	よしづみ まさたか				
	氏名	吉積 正孝				

昨年度の成果と課題	◎成果:①ICT活用について、年々使用率が上がっており、内容も充実してきている。②体育祭を初の屋内(PayPayドーム)で実施した。③支援が必要な生徒に対し、きめ細かな対応ができています。④教務内規・校則等時代に合った見直しを行った。 ◎課題:①学校改革に向けて、全職員の共通理解と意識の統一②全職員による継続した粘り強い指導③早期離職の防止④学校行事の実施に向けた創意工夫⑤校外の人権研修への参加者の増加⑥働き方改革に向けた対応
-----------	--

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	可能性及び能力を最大限に伸ばさせる授業への取組み	ICTを活用した授業の拡充を行う。 観点別評価を生かして、授業と評価の一体化をすすめる。					
	授業規律の向上	教室環境の整備および整理・整頓を徹底する。 チャイム席を守る。					
生徒指導	学校生活に応じた生活習慣・規範意識への意識向上	礼節を重んじた指導の徹底を行う。（より良い行動の積み重ね） 全職員、生徒会生活委員会による登下校指導（挨拶・身だしなみ・自転車マナー）と風紀検査での徹底指導を行う。					
進路指導	確かな進路実現（就職指導）	企業選択の幅を広げるため、求人事業所への積極的な訪問活動を行う。 主体的に進路を選択できるように、インターンシップや進路LHR等のキャリア教育を通じて、職業観や勤労観を育む。					
	確かな進路実現（進学指導）	各学年で進学ガイダンスや面談を行い、進学意識・目的を明確に持たせる。 推薦や総合型選抜に対応できるよう、情報収集や職員研修を行い、全職員で指導にあたる。					
特別活動	生徒会・部活動の活性化	生徒会専門委員会が中心となり、生徒1人1人が主体性を持って学校行事等に取り組み活性化を図る。 各部活動生が目標を明確にし、主体的に取り組みができるような環境や場を設定し、部活動の活性化を図る。					
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し	各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る。課題研究の充実のため学科横断的な取り組みを推進する。知的財産教育に関して計画的な取り組みを実施し、定着を図る。 ものづくり技術を向上させ、競技会などでの成果を高める。地域や中学校に対する広報活動を充実させ、本校の取り組みを積極的にアピールする。					
	資格取得・各種検定合格率の向上	資格取得プログラムを充実させ、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指し、ジュニアマイスター顕彰の認定者の増加を図る。 資格取得指導を充実させるための、新たな指導体制の確立を図り、教員の資格指導に関する資質・専門性の向上を図る。					
修学支援	進路保障における問題解決に努め、生徒一人一人の自己実現に対する支援を行う	生徒・保護者の要望を聞きつつ、支援が必要な生徒に対してきめ細やかな配慮を行う。 各種奨学金・給付金制度への相談体制を充実し、周知と理解を広げる。					
	生徒の自己肯定感及び人権感覚を育む	校内外で実施される研修会や学習会への積極的な参加を促進する。 屋形原特別支援学校との交流学習を実施する。					

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度,B…目標を上回る達成度,C…目標どおりの達成度,D…目標を下回る達成度,E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。

※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。